

第3期 第2回 向日市子ども・子育て会議 会議録

○日 時 平成31年3月18日（月） 13時30分から15時30分

○場 所 向日市女性活躍センター「あすもあ」 大会議室（2階）

○出席者 （出席委員15人）

安藤和彦委員（会長）、井上裕之委員、井上渉委員、風谷千賀子委員、神田よし子委員、川村宗己委員、高山紀公子委員、田中久美子委員、田部千夏委員、津田陽委員、福井千津委員、藤井一郎委員、藤林道代委員、松下有紀委員、宮地健一委員

（50音順）

（事務局10人）

【市民サービス部】

水上市民サービス部長、川本市民サービス部副部長、長谷川和代障がい者支援課長、長谷川琢子育て支援課長、紺野子育て支援課主幹、近藤保育係長、前田子育て支援課主査

【教育部】

鹿島生涯学習課長、野田学校教育課担当課長、阿部教育総務課主査

○欠席者 （委員 5人）

北口勝也委員、四方貴之委員、築山剛委員、花安肇委員、余根田聡委員
（50音順）

○傍聴者 1人

○議題 (1)第2期向日市子ども・子育て支援事業計画の概要について

(2)向日市子ども・子育てに関するアンケート調査について

(3)平成30年度及び31年度 向日市子ども・子育て支援事業計画における取り組み状況について

(4)保育所の入所状況について

(5)子ども・子育て支援事業計画【第6章目標事業量と確保方策】の見直しについて

（議事内容）

議題1 第2期向日市子ども・子育て支援事業計画の概要について	
議題2 向日市子ども・子育てに関するアンケート調査について	
事務局	資料1、2-1、2-2を用いて、計画の概要と子ども・子育てに関するアンケート（案）について説明
委員	（計画概要とアンケートについての主な質疑・意見） 地域子育て支援事業についての設問で、「利用していない」理由が知りたい。例えば、「・知らなかった・遠いから・自分としては必要と思わない・交流が苦である・その他」などの理由を把握することで、今後の対応につなげられる。

委員	幼児教育・保育無償化の説明について再考が必要。 子ども子育て会議の基本は、向日市の子育て支援にどのような可能性を与えたらいいのか、防災対策もそういう視点で準備を行うということを保護者に対して啓発すべきと考える。
事務局	防災の件についての内容についてはまだ検討が必要で、担当課とも協議し、精査していきたい。
委員	「子育て中に最も備えが必要だと思う災害」は、すべてを置いて避難を余儀なくされる原発事故が一番怖いと思う。
事務局	前提として、本計画は、数値設定を法律で定められた、保育需要やそれを取り巻くことが中心になる。しかし、せつかくの機会であるので、子育てを取り巻く環境のことなど、いろいろ聞いておきたいとの思いから、例えば食育・防災の項目を少し加えた。本題は保育の需要や地域社会の資源をどうしていくかというところになるが、災害に関する件については、防災安全課とも調整しながら、このアンケートの内容を決めていきたい。
委員	ふるさと創生計画や第1次障がい児支援計画を踏まえ、子育ての環境として、放課後デイサービスなど療育に関することについてアンケートしてほしい。
事務局	療育に関しては、障がい者に関する計画を策定するので、そちらでアンケートを取る。
委員	アンケートを全部回答すると、所用時間はどれくらいか。何を目的に、何をしたいのかが書かれていないと回答率が下がる。
事務局	子育てをしている方たちのための調査であること、ご意見を子育て施策に反映させたいという気持ちが行政にあることを、市民にわかりやすい言葉で伝えたい。
委員	アンケートの中で、若者の自立の推進というのは小学校入学前の子どもには先のことのようになってしまう。
事務局	設問は京都府のモデル調査票から取っている。内容的に抽象的であるので、一度どのような概念でこの選択肢が出てきたものか京都府に確認する。
委員	この計画の根拠となるものはアンケートだけなのか。
事務局	計画の策定に向けて、このアンケートもひとつの基礎となるが、計画策定の手法として、様々な団体や、関係課、教育、母子保健、

	障がい者支援担当へのヒアリング・聴き取りの実施は今後考えていきたい。アンケートだけで決まるものではない。
委員	トワイライトステイとショートステイは、現在、養護施設に委託されていて、日によっては養護施設が利用できないということを聞いている。調査をして、施設がさらに必要とされたら、市としてはその先を考えているのか？
事務局	当初この事業を開始した時は、契約している施設は大阪の島本町の施設1カ所だけであったが、利用したい時に満員のため、受入れを断られるということがあったので、昨年度で2カ所増やし、現在は亀岡市と伏見区の施設と合わせて、3施設と契約でき、今はお断りしている状況はない。今後必要度が高いのならば、委託施設を探すのは難しいが、なるべくたくさんの施設と契約していきたいと考える。
委員	施設といった遠いところにやむなく預けるということだが、例えば向日市で考えるならファミリーサポートセンターで少し預かってもいいということや、やむを得ないときはそういう身近なところや、子どもが利用するときに信頼関係が築けるところがあればよいのではないか。
会長	一番の問題は泊まりを伴うこと。1週間預かってくれるところは、親戚といったプライベートな方法しかない。支援できる親族が遠隔地で誰もいないとかいうことが実際起きている。
委員	ショートステイが難しい場合は、児童相談所で預かることもある。しかし、一時保護所も入所者は多く、受け入れ困難なこともあり、今は、里親を増やすことに力を入れている。例えば1週間なら、お子さんを預かることができるという里親さんも増えてくるとショートステイの代わりに依頼することもできると思っている。施設で預かると、学校への距離が遠いため通えないが、向日市内で里親をするという方が増えてくると小学校や保育所にそのまま通うことにできるというメリットがある。
会長	今日のご意見を踏まえ、向日市の正式なアンケートをまとめていきたい。なお今後のスケジュール案において説明させていただきましたように、アンケート調査票を配布し、回収した調査表の集計分析を行い、その結果がまとまった後で、次の会議を開催したい。詳細なスケジュールにつきましては事務局と相談の上決定することし、決まり次第各委員に連絡する。

議題3	平成30年度及び31年度 向日市子ども・子育て支援事業計画における取り組み状況について
議題4	保育所の入所状況について
議題5	子ども・子育て支援事業計画【第6章目標事業量と確保方策】の見直しについて
事務局	資料3、資料4及び資料5を用いて、議題3～5について説明 (質疑なし)
事務局	今後の計画策定スケジュールを説明。会議の日程については会長と調整し、委員へお知らせする。 以 上